

第30回日本生命倫理学会年次大会（2018年12月8（土）、9日（日））において、「脳組織バンク・ニューロモジュレーション・人工知能：アジアにおける経験に基づく哲学的省察と実践的視座」と題して、海外講師を招いてシンポジウムを行います。

●韓国国立江原大学校の医師・病理学者 Young-Joon Ryu 教授：

「人クローン ES 細胞樹立」論文不正（ファン・ウソク事件）の内部告発者として世界的に知られる。今回は、神経学的技術開発のモチベーション、脳神経倫理の役割について考察する。

- ・記録集掲載号 「臨床評価」 [45 巻 4 号](#)
- ・「臨床評価」入手方法 [cont@nifty.com](mailto:cont@nifty.com) までご連絡ください。

●国立台湾大学の医師・生命倫理学者 Daniel Fu-Chang Tsai 教授：

UNESCO の生命倫理国際ネットワークの台湾支部長、台湾 IRB 協会長。組織バンク運営、人工知能などの先端的技術に伴う倫理的問題を、実務経験・哲学的分析に基づき考察する。

- ・関連情報 「臨床評価」 [41 巻 2 号](#)：[41\(2\); 337-49](#)  
「臨床評価」 [46 巻 1 号](#)：[46\(1\); 135-45](#)；[46\(1\); W29-40](#)
- ・「臨床評価」入手方法 [cont@nifty.com](mailto:cont@nifty.com) までご連絡ください。

海外講師の講演・質疑応答は英語により積極的に行っていただけることを期待しますが、当日英語による質問が難しい参加者の日本語による事前質問は下記の e-mail address で受け付けいたします（ただしオーガナイザーが扱える形に調整いたしますのでご了承ください）。

[Chieko.kurihara@nifty.ne.jp](mailto:Chieko.kurihara@nifty.ne.jp)（栗原千絵子）

皆様のご参加をお待ちいたしております。